

目指す学校像	○児童が生き生きと活動し、笑顔と活気があふれる学校 ○児童一人ひとりを大切にし規律ある学校 ○教師が誇りと使命感をもって働く学校 ○教育環境が整い、安心安全で、きれいな学校 ○保護者や地域から信頼されともに歩む学校
重点目標	1 真の学力の育成を図る教育課程の推進 2 児童が生き生きと活動し、保護者や地域に信頼される学校づくりの推進及びリフレッシュ改修工事における適正な教育活動の実現 3 HP とメールによる迅速な情報発信と業務の電子化、コミュニティ・スクール (CS) による学校・家庭・地域の連携の強化 4 教員の指導力の向上を目指したアクティブ・ラーニング型授業の推進

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国を上回っており良好な結果である。また、主体的に学習に取り組む態度に関する質問についても、肯定的な回答をした割合が全体的に高い。 (課題) ○質問紙調査では自己肯定感の数値は高いが、実際は、発言の声が小さかったり、自信なさそうに発表したりする姿が見られる。自ら学習に取り組むという点では、個人差が見られる。	・「個別最適な学び」の推進 ・教科横断型の「探究的な学び」の実践	①GIGA スクール構想にかかわり、タブレットを活用した授業の改善を行う。 ②スタディ・サプリを学校及び家庭において活用を図る。 ①STEAMS 教育について、年間指導計画に学びのポイントを位置付ける。 ②全国学習状況調査の結果を分析し、分析結果を基に授業改善に生かす。	①児童が毎日授業でタブレットを活用できた実感できたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サプリを活用した学習に取り組めたか。 ①「STEAMS TIME」のカリキュラムに学びのポイントを位置付けられたか。 ②全国学調の児童の振返りを基に1学期中に分析し、分析結果を基にした授業改善を2学期以降に行えたか。	①タブレットにかかわる教員の研修は継続的に行っているため、タブレットの活用は全ての教員が自然に行っている。 ②学校において、補充及び発展的にスタディ・サプリを活用することができた。 ①現在作成中で、本年度中に位置付けられる予定である。 ②主体的に学習に取り組む点に課題が見られるので、授業における振り返りの類型化により、児童が自分の学びを客観的に振り返り、次への学びに生かすようにした。	A B	・タブレットを使うことが目的になってしまわないように、目標に特化した学習を設定する。 ・スタディ・サプリの効果的な活用について、実践を構築する。 ・「STEAMS TIME」のカリキュラムについて、実践を通して検証する。 ・振り返りの類型化についての研究をさらに進める。
2	(現状) ○児童は全体的に穏やかで落ちついている。どの学年も誰とでも関わることができる。 ○昨年度は年間を通してあいさつの指導を行ったので、進んであいさつできる児童が増えてきた。 ○校庭が狭いため、業間か昼休みの一方でしか外遊びをすることができない。 (課題) ○高学年になるにつれて、「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが現れる児童が増えている。 ○3年間にわたる工事で、校庭が半分以下になるなど、適正な教育環境を確保するのが難しい状況にある。保護者や地域の方には、様々な考え方があり、本校の状況を理解していただくことが難しい。	・児童の生き生きとした教育活動を支援するための迅速かつ組織的な対応 ・リフレッシュ改修工事に対応した適正な教育活動の実現	①児童にかかわる問題への対応は「チーム学年」として学年主任を中心に「事実の確認→該当児童への指導→該当保護者への進捗状況の報告」をその日のうちに行う。 ②生徒指導・教育相談にかかわる協議会(定例会)を月に2回開催する。定例会では、1回を生徒指導中心に、もう1回を教育相談中心に、内容の差別化を図り、協議内容の充実を図る。 ①担当課や工事業者と毎週打合せや相談を行い、当事者意識をもって改修工事にかかわる。 ②改修工事にかかわる諸課題に対する保護者や地域の方の強い要望に対して、関係機関に相談し、学校でできることは迅速に対応する。	①問題を覚知した際、その日のうちに対応できたか。 ②生徒指導・教育相談にかかわる諸課題について、それぞれの内容の協議が深まり、専門家や関係機関と連携して対応できたか。 ①関係者との打合せ内容を教職員に周知し、大きな事故無く教育活動を行えたか。 ②保護者や地域の方からの強い要望について、関係機関が学校のどちらかで対応できたか。	①問題を覚知した際はすぐに対応し、大部分は午前中のうちに事実の確認から指導まで行い、昼に保護者に連絡することができた。 ②月2回の定例会では、1回を生徒指導中心に、もう1回を教育相談中心に内容の差別化を図った。また、SSWの勤務日には、定例会に参加していただいた。そのほか、児相や医療機関、指導2課、総合教育相談室等と連絡を取り、積極的に連携した。 ①担当課や工事業者と毎週打合せや相談を行うとともに、打合せ内容を教職員に周知し、大きな事故無く教育活動を行えた。 ②保護者や地域の方から校庭の駐車場利用や公園での体育活動について強い要望をいただいたので、市教委と連携を図り対応策を実践した。	A A	・転入職員や経験の浅い教員について、運営委員と同程度の危機意識をもって取り組めるよう共通理解を図る。 ・定例会の資料作成について、事前に入力できていない学年があるので、資料作成についての精選を図り、データが蓄積できるようにする。 ・日常を通して工事内容を確認し、問題が見つかった場合は迅速に担当課と協議する。 ・特別な対応をする場合は、早目に情報を周知し、保護者や地域の方の理解を得るように努める。
3	(現状) ○本校では紙媒体から電子媒体への移行が概ねできており、保護者へも浸透している。 ○本校では、PTAも地域も学校の教育活動に協力的なので、元々CSと同等の取組ができています。 (課題) ○電子媒体の活用とが、学校と家庭との双方向の連絡ツールとして、さらなるデジタル化が求められている。 ○学校運営協議会での熟議は活発に行っているため、熟議で話し合われたことについての具体的に取り組むよう心掛ける必要がある。	・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進 ・CSによる学校・家庭・地域の連携強化	①本校から発出される文書については、原則としてHPに掲載し、掲載時にはメールに掲載先のリンクを貼り周知する。 ②児童の欠席と低学年の下校予定調査については、HPに欠席連絡フォームで対応する。 ③教材費等の集金は、年4回の振込とし、振込時期を実態に沿って変更する。 ①昨年度からCSで取り組んでいる「小さなよき社会人を育成する」「自己肯定感を高める」ことについて、熟議で具体的な方策を決め、実行する。	①紙媒体の配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡や低学年の下校予定調査について、円滑に管理できたか。 ③教材費等の集金の振込時期を、実態に沿って変更できたか。 ①学校運営協議会の熟議でテーマにかかわる具体的な方策を決め、具体的な方策を実行できたか。	①本校から発出される文書の9割以上は、電子媒体により情報提供をした。 ②欠席連絡や低学年の下校予定調査について、予定通り実施できた。 ③教材費等の集金の振込時期を、支払い時期を踏まえた時期に設定し、学校に現金を保管する機関がほぼ無かった。 ①学校運営協議会の熟議で本年度のテーマである「自己肯定感を高める」ことについて児童の実態や今後の方針について共有することができた。具体的な方策については、今後も継続して協議していく。	A B	・情報の発信については適正であるので、情報収集についての方法を考える。 ・定期的に発信するものは、遺漏ないように取り組む。 ・過去の実績を基に、該当学年で年間どの程度の集金が必要なのか見直しをもったうえで教材費を執行する。 ・来年度は、「自己肯定感を高める」ことについて、具体的な方策をきめ、実行する。
4	(現状) ○若い教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が比較的早い。 (課題) ○タブレット等は教育の道具なので、ともすると道具を使うことが目的になりがちである。従来から大切にされている「児童が課題を意識して学習する」ための指導法について、研鑽を積む必要がある。	・児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員が行えるよう、毎日校長が校内巡視を行い、必要に応じ指導を行う。 ②メタ認知力育成のため、振り返りの時間を5分以上確保する授業を全員が行えるよう、全体会や研究推進委員会でそのねらいを伝達するとともに、よい実践については具体的によい点を示し全体で共有する。	①問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振り返りをする板書ができたか。 ②授業において振り返りの時間を5分以上確保し、その振り返りを全体で共有し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりしたか。	①教員間で問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振り返りをする点について共通理解を図り、実践できた。 ②ほとんどの教員が授業において振り返りの時間を5分以上確保することを意識できている。振り返りを全体で共有し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりできるようになったりしてきた。	B	・転入職員について本校の授業づくりについてできるだけ早い時期に共通理解を図るようになる。 ・今後も振り返りの時間を確保するとともに、個の振り返りだけでなく全体での共有を行うことにより、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりできるようにする。

学校運営協議会による評価
実施日令和6年2月16日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等

・学習指導については、適正に行われている。

・学校で児童への対応はよくやれているが、多様化の現代では、例えば、主任児童員や民生委員との情報共有を行うなど、保護者や地域と連携しながら進めていくとよいのではないかと。
・リフレッシュ改修工事の対応については、当事者意識をもって適正に行われている。

・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進については、適正に行われている。
・与野東中では、地域のイベント等に生徒がボランティアで参加しているため、小学校も行ってはどうか。
・コミュニティスクールについて、教職員への理解をさらに深めてほしい。あわせて、教職員が地域に出るといったことも大切ではないかと。

・教員の指導力の向上についての取組は、適正に行われている。